

企業短期経済観測調査（道北^{*}地域分）
（調査対象企業：道北^{*}42社）

※上川、宗谷、オホーツク総合振興局管内
回答社数構成比 %ポイント
（ ）内は前回調査時予測

（判断D. I.）

	2020/6月	9月	12月	2021/3月	6月	9月	2021/12月 までの予測
業況判断 < 良 - 悪 >	▲14	▲5	2	5	5	(▲9) 7	▲15
うち製造業	0	0	11	38	38	(13) 50	25
非製造業	▲17	▲6	0	▲2	▲3	(▲15) ▲3	▲24
国内での製商品・サービス需給 < 需要超過 - 供給超過 >	▲30	▲19	▲20	▲13	▲15	(▲23) ▲7	▲10
製商品在庫水準 < 過大 - 不足 >	▲7	▲4	▲3	▲13	▲3	▲13	
生産・営業用設備 < 過剰 - 不足 >	5	3	▲3	5	3	(0) 0	▲5
雇用人員 < 過剰 - 不足 >	▲34	▲36	▲34	▲30	▲25	(▲42) ▲30	▲37
資金繰り < 楽である - 苦しい >	0	14	12	15	15	17	
金融機関の貸出態度 < 緩い - 厳しい >	33	33	31	33	30	27	
借入金利水準 < 上昇 - 低下 >	▲20	▲18	▲2	▲5	3	(3) 0	0
販売価格 < 上昇 - 下落 >	▲10	▲3	3	0	3	(10) 5	13
仕入価格 < 上昇 - 下落 >	13	20	15	22	38	(38) 35	43

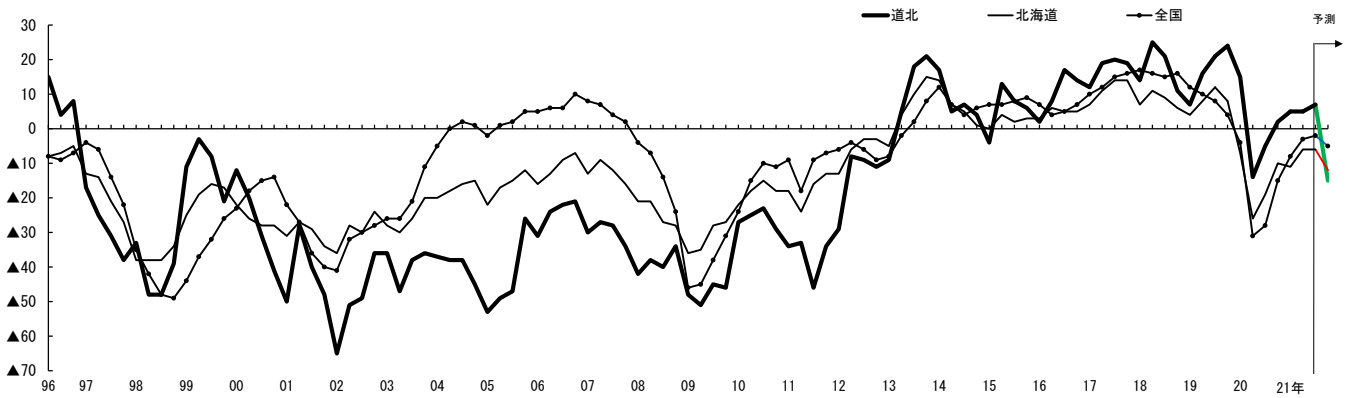
（事業計画）

全産業、前年度比%、
< >内は前回調査比修正率%

	2019年度実績	2020年度実績	2021年度計画					
			上期		下期			
売上高	-0.5	-6.5	-0.8	< 0.0 >	2.6	< -0.8 >	-3.7	< 0.7 >
経常利益	-2.6	-12.0	5.7	< 31.9 >	12.6	< 69.5 >	-0.7	< 7.1 >
当期純利益	21.4	-87.8	7.0倍	< 15.7 >	66.3	< 26.4 >	NA	< 6.6 >
設備投資額	60.8	-8.9	-52.1	< 9.6 >				

2021年9月短観・調査結果

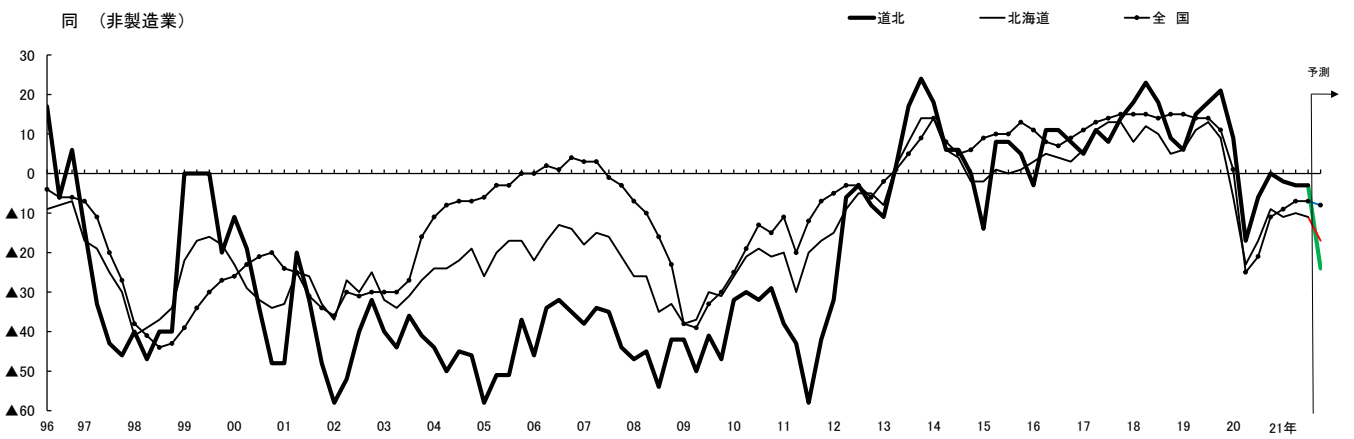
業況判断D. I. (「良い」 - 「悪い」、%ポイント)



同 (製造業)



同 (非製造業)



(注)

道北：上川、宗谷、オホーツク総合振興局管内

全国、北海道は2017/9月以前は調査対象企業見直し前の旧ベース、2017/12月以降は見直し後の新ベース。

道北地域の企業短期経済観測調査結果（2021年9月）の概要

- 調査対象企業：道北地域 42 社（製造業 8 社、非製造業 34 社）
- 回答率 97.6%（有効回答社数 41 社）
- 回答期間：2021 年 8 月 26 日～9 月 30 日

1. 業況判断 DI

- 9月の業況判断 DI（全産業ベース、DI：%ポイント<以下同じ>）は、+7 と前回 6 月調査に比べて改善した（前回+5、前回比+2）。
 - 製造業の業況判断 DI は、+50 と前回調査比改善した（前回+38、前回比+12）。
 - 非製造業の業況判断 DI は、▲3 と宿泊・飲食サービス、個人消費関連が改善したものの、建設、運輸が悪化し、前回調査比横這い（前回▲3、前回比±0）。
- 先行きの業況判断 DI は、悪化を見込み、マイナス転化するとの予測（2021 年 12 月までの予測：+7⇒▲15）。
 - 製造業は、悪化の見込み（+50⇒+25）。
 - 非製造業は、建設、宿泊・飲食サービス、対事業所サービスが悪化を見込むことから、悪化する見込み（▲3⇒▲24）。

2. 各種判断 DI

- 「製商品・サービス需給判断 DI<需要超過－供給超過>」（▲15⇒▲7）は、製造業が需要超幅を拡大したほか、個人消費関連が供給超過を解消し、宿泊・飲食サービスが供給超幅を縮小したことから、全体でも供給超幅が縮小した。先行きは、供給超幅が拡大する見通し（⇒▲10）。「製商品在庫水準判断 DI<過大－不足>」（▲3⇒▲13）は、建設関連が供給超過に転化したものの、製造業が不足超過に転化したほか、卸・小売が不足超幅を拡大したことから、全体では不足超幅が拡大した。
- 「生産・営業用設備判断 DI」<過剰－不足>」（+3⇒±0）は、宿泊・飲食サービスが過剰超過を解消したことから、全体でも過剰超過が解消した。先行きは、建設、個人消費関連が不足超過に転化するため、全体でも不足超過に転化する見通し（⇒▲5）。

- 「雇用人員判断 DI<過剰ー不足>」(▲25⇒▲30)は、製造業が不足超幅を拡大したほか、宿泊・飲食サービスが不足超過に転化したため、全体でも不足超幅が拡大した。先行きは、対事業所サービスが過剰超過を解消するほか、建設、宿泊・飲食サービスで不足超幅が拡大するため、全体でも不足超幅が拡大する見通し(⇒▲37)。
- 企業を取り巻く金融環境についてみると、「資金繰り判断 DI<楽であるー苦しい>」(+15⇒+17)は、「楽である」との回答先が増えたため、「楽である」超幅が拡大した。「金融機関の貸出態度判断 DI<緩いー厳しい>」(+30⇒+27)は、「緩い」超幅が前回調査比で縮小したほか、「借入金利水準判断 DI<上昇ー低下>」(+3⇒±0)は、「上昇」との回答先が減少したことから、上昇超過が解消した。
- 「仕入価格判断 DI<上昇ー下落>」(+38⇒+35)は、建設関連が上昇超過に転化し、卸・小売、宿泊・飲食サービスが上昇超幅を拡大したものの、製造業、建設、運輸が上昇超幅を縮小したため、全体では上昇超幅が縮小した。先行きは、卸・小売が上昇超幅を縮小するものの、製造業、建設が上昇超幅を拡大するため、全体では上昇超幅が拡大する見通し(⇒+43)。「販売価格判断 DI<上昇ー下落>」(+3⇒+5)は、個人消費関連が下落超過を解消したことから、全体では上昇超幅が拡大した。先行きは、個人消費関連が下落超過に転化するものの、卸・小売が下落超過を解消し、運輸が上昇超過に転化するほか、製造業、建設が上昇超幅を拡大することから、全体では上昇超幅を拡大する見通し(⇒+13)。

3. 事業計画

- 2021年度の計画は、売上高は前年度比▲0.8%、経常利益は同+5.7%、当期純利益は同7.0倍、設備投資額は同▲52.1%となっている。売上高は前回調査比ほぼ横這いの一方、経常利益、当期純利益、設備投資額は上方修正された。

以 上